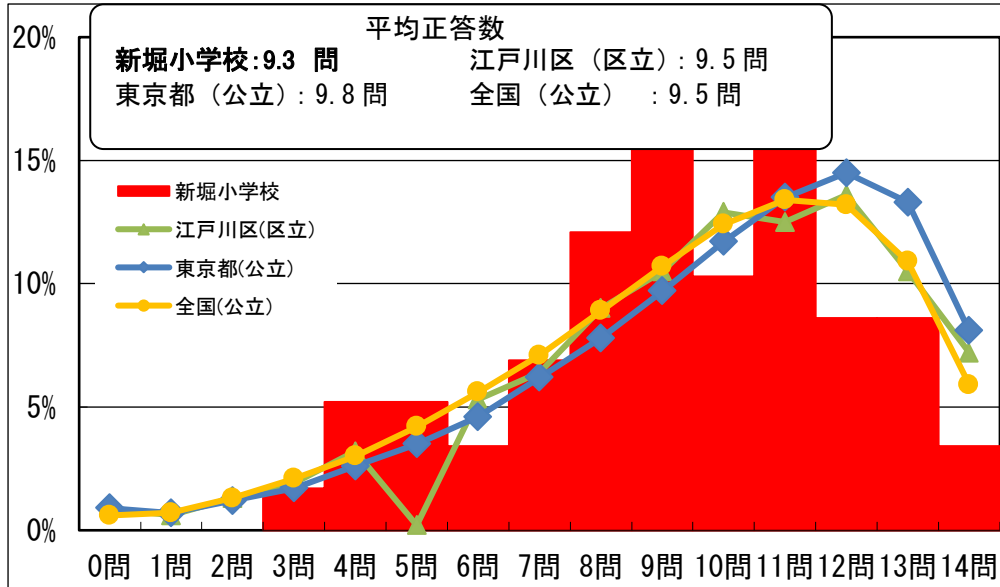


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】新堀小学校

正答数分布



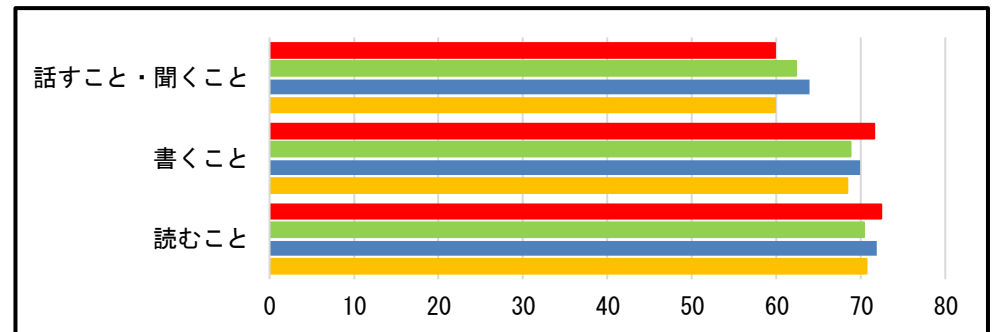
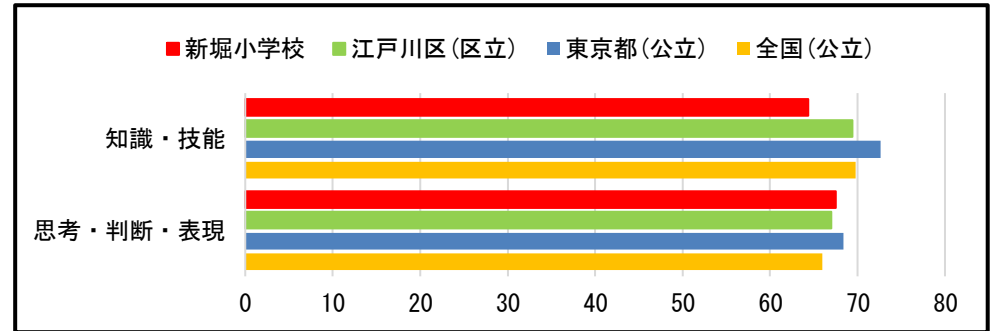
<四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← → 下位

国語	A層 12~14問	B層 10~11問	C層 8~9問	D層 0~7問
新堀小学校	20.7	25.9	31.0	22.4
江戸川区(区立)	31.3	25.4	19.5	23.8
東京都(公立)	35.9	25.2	17.5	21.4
全国(公立)	30.0	25.8	19.6	24.6

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【平均正答率の差】

新堀小学校	66%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	67.7%
都との差	-4ポイント

%

【分析結果と授業改善に向けて】

<分析>平均正答率 66%は、都より 3%低い。AB層は約 46%でC層が多い。「書くこと」は都よりも良い反面、「話すこと・聞くこと」が低い。

<授業改善>基礎基本を身につける指導を継続するとともに、問題解決的な学習である「読み取ったことや考えたことを設定された条件に合う形式でまとめる学習」を増やしていく。児童同士で説明し合い理解を深める学習を継続し、考えたり確かめたりする学習の中で見通しをもてるようにする。